川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～

平成２８年１０月

川越町教育委員会

川 越 北 小 学 校

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～

平成２８年１０月
川越町教育委員会
川 越 北 小 学 校

本年４月、小学校６年生及び中学校３年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。

1. 学力･学習状況調査結果

全国学力・学習状況調査について
Ａ問題とは、主として「知識」に関する問題です。（身につけておくべき基礎的な知識や技術）
Ｂ問題とは、主として「活用」に関する問題です。（知識や技能を実生活の場に活用する能力）

（１）学力調査の結果

□全体の傾向・・・全体的に二極化傾向の改善が顕著に見られ、全国及び県の正答数分布曲線に沿った結果となっている。

国語Ａ：ごく一部正答率のやや低い児童も見られるが、正答率の高い児童が多い。
国語Ｂ：正答率の低い児童がごく一部見られる。
算数Ａ：正答率のやや高い児童が多い。
算数Ｂ：正答率のやや低い児童が少なく、平均正答率付近の児童が多い。

□強みと弱み

	Ａ問題	Ｂ問題
国語	○目的に応じて、図や表とを関連づけて読むことができている。 ▲ローマ字の読み書きは、定着してきている子と定着していない子との二極化が大きい。 ▲漢字の読み書きの出来栄えに、ばらつきがある。	○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを的確にしながら読むことはできている。 ▲グラフや資料をもとに、目的や意図に応じて自分の考えを書くことができていない。 ▲目的に応じて、本や文章を比べて読むことができていない。
算数	○全体的に無答率が低く、どの子もよく取り組めている。 ○図形に関する問題については、理解できている子が多い。	○式の意味を考えたり、式に数値を当てはめて解答したりすることができるようになっている。 ▲式の中の数値の意味や、グラフの読み

算数	○数の大小関係については理解できており、無答率が極めて低い。 ▲小数の計算に課題がある。 ▲数の割合の理解について達成できていない。	取り等、記述式で答える問題は無答率が高い。 ▲図形の性質と関連付けて、説明することが達成できていない。

（２）児童質問紙による生活調査結果

①学習時間帯

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師含む）

１日の学習時間が、0 分～30 分の児童の割合・・・全国：１１．９％　川越町：１５．５％

＊毎日 1 時間以上学習する児童の割合は増えている。

全国と比較すると学習時間は短い。特に、30 分未満～全くしない児童の割合が多い。

②予習・復習

Q：家で宿題をしていますか。

宿題をしている児童の割合・・・・・・・・・・全国：９７．０％　川越町：９９．３％

Q：家で学校の授業の予習をしていますか。

予習をしている、どちらかといえばしている児童の割合

・・・・・・・・・・全国：４３．３％　川越町：３８．５％

Q：家で学校の授業の復習をしていますか。

復習をしている、どちらかといえばしている児童の割合

・・・・・・・・・全国：５５．２％　川越町：４７．７％

＊ほぼ全員が、家で宿題をしている。

予習・復習といった自主勉強については十分ではない。

③読書習慣

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、どのくらい読書をしますか。

１日の読書時間が 30 分以上の児童の割合・・・全国：３６．５％　川越町：３１．８％

読書を全くしない児童の割合　・・・・・・・・全国：２０．６％　川越町：２５．２％

＊30%以上の児童が､毎日 30 分以上読書をしている｡全く本を読まない児童の割合が多い。

④基本的生活習慣

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

起きている児童の割合・・・・・・・・・・・・全国：５７．４％　川越町：６２．２％

Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

寝ている児童の割合・・・・・・・・・・・・・全国：３８．２％　川越町：３６．３％

＊就寝時間が決まっていない児童が多い。

⑤自尊感情

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

よいところがない、あまりないと答えた児童の割合

・・・・・・・・・・全国：２３．６％　川越町：２０．７％

＊全国に比べると、自尊感情が低い子は少ない。

⑥キャリアの形成

Q：将来の夢や目標を持っていますか。

持っている・どちらかといえば持っている児童の割合

・・・・・・・・・全国：７６．３％　川越町：７８．５％

＊将来の夢や目標を持っている児童の割合が増えてきた。

⑦家庭でのコミュニケーション

Q：家の人と学校での出来事について話をしていますか。

話をしている、どちらかといえばしている児童の割合

・・・・・・・・・・全国：７９．２％　川越町：７８．５％

＊多くの家庭で、学校生活について話をすることができている。

⑧ゲームの時間

Q：普段（月～金曜日）、1日にどれくらいゲーム（ＰＣ、スマートフォン等のゲームを含む）をしますか。

１日に3時間以上ゲームをする・・・・・・・・全国：１６．０％　川越町：２１．５％

＊ゲームに費やす時間は、全国と比較してやや多く、特に1日に4時間以上ゲームをする児童は全国が８．２%に対して１２．６%いる。

⑨メール・インターネットの時間

Q：普段（月～金曜日）、1日にどれくらいメールやインターネットをしますか。

携帯電話やスマートフォンを持っている・・・・全国：６１．１％　川越町：６０．０％

１日に１時間以上メールやインターネットをする

・・・・・・・・・・全国：１８．５％　川越町：２４．５％

＊携帯電話やスマートフォンの所持率は全国よりもやや低いが、使う時間は長い。

（３）学校質問紙による調査結果

● **「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れたか」**

本校では全教職員で取り組んできたので、「よく行った」と回答しました。今後もさらに継続し、「子どもたちが見通しを持って学習し、確かな学力をつける」ことを目指して、「書く習慣をつける授業ならびに読む習慣をつける授業」を積極的に行い、学んだことをまとめる（ふりかえる）ことを重視する授業を展開していきます。

● **基礎・基本の力をつけていくために、「国語（算数・数学）の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えたか」**

本校では全校的に取り組んできたので、「よく行った」と回答しました。毎日の授業や家庭学習を大切にすることが、粘り強く取り組む子どもたちの姿につながります。今回の調査においても、全員が自分なりの回答をしている設問が増え、無答率も全国や三重県よりも下回る設問が増えました。

● **「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか」**

町の重点でもあることから「取り組んでいる」と回答しました。教育活動において様々な場面で挑戦する場を設定して取り組んでいますが、子どもたちの自尊感情の高まりにまだまだつながっていない状況です。しかしながら、昨年度と比較すると改善の傾向が見られるた

め、今後も意欲を持って挑戦しようとする機会を意識的に設定し、一人一人によい点や可能性を見つけ、積極的に評価および承認を行っていくことで、自尊感情の高まりへつなげていく必要があると考えています。

- **「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めたか」「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか」**
  本校では「取り組んでいる」と回答しました。互いの考え方を交流したり自らの考えを深めたりするための活動を取り入れていますが、理解力および活用力向上へつながるよう、友だちと共に考え、自らの考えをまとめて表現する活動を積み重ね、授業展開の工夫をしていきたいと考えています。

2. 教科に関する調査結果から見えてくることと対策

（1）調査結果から見えてくる課題

国語

- 与えられた文字数や条件に合わせて、よりよくまとめたり書いたりする力に課題がある。
- 初めて向き合う文章に対して、根気よく読んだり考えたりすることが苦手である。
- 複数の資料から必要な情報を選択し、関連付けて思考することに慣れていない。

算数

- 基本的な計算力や図形に関する基礎知識はあるが、問題を解くために必要な数値や条件を見つけ、これまでに学習した内容と関連付けながら思考することに課題がある。
- 解き方について説明する問いに対し、必要な言葉や数式を用いながら表現することに慣れていない。

（2）課題を解決するための手立てや指導改善について

全体を通して

全教科において、つけたい力を明確にし、児童生徒自身が「何を学んだか」「どんなことができるようになったか」をさらに実感できるようにします。

1. 「めあてとふりかえり」（目標の提示、振り返り活動）のある授業の徹底を図り、子どもたちが「できた」と実感が持てる指導を行う。また、それらを家庭学習へつなげる。
2. 自分の考えを整理して書く力をつけるためのノート指導を行う。
3. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 書くことの指導の充実
   ・テーマを設定し、制限字数の中で条件に合った答えを書く練習をする。
2. 語彙を豊かにする指導の工夫
   ・漢字や語句を習得するために、例文やフレーズで覚える学習を数多く取り入れる。
   ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実するなど読書活動を工夫する。

3. 自分の考えをまとめる活動の充実
・授業における話し合いや毎時間のめあてに対する振り返りの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。
・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。
4. 音読の習慣
・声に出してしっかり読むことを習慣づけて、正確に読み取る力の基盤作りを徹底する。

算数
1. できる活動の充実
・基礎となる内容をていねいに指導し、定着を図るための活動を取り入れる。
2. わかる活動の充実と根拠を述べる答え方を求める授業展開
・「○○であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
3. 子どもたちが「わかった」「できた」ことが実感できる授業展開
・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。

3. 町教育委員会による手立て

（１）少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的基本的な力の向上を目指します。

（２）きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員の配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人ひとりの子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

（３）学力向上推進委員会の機能的な運営

川越町学力向上推進委員会において、各学校の児童生徒分析や取組について情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

（４）校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教育委員会の指導主事が各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を拡充します。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

（５）家庭学習および読書活動の推進

三重県下で展開されている学力向上県民運動と連動しながら、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバスをもとに、「家庭学習の定着に向けた取組の必要性および具体的な家庭支援法」を各家庭へ呼び掛けていきます。

（６）自己有用感の向上

児童生徒の自尊感情が高まるよう、「子どもたちが挑戦する場」を学校や家庭で引き続き意図的に設定するとともに、その機会を生かして、子どもたちの伸長を見つめ、承認していけるようにします。

4. 川越北小学校の取組

（１）各種学力調査結果の分析及び活用

学力向上推進委員会を中心に全職員で、全国学力・学習状況調査や「みえスタディチェック」、到達度検査（ＣＲＴ）の結果を分析し、学習内容の定着状況や得意分野、苦手分野の把握を行います。

定着が不十分な内容については、類似問題の活用や反復練習などの取組を進めます。また、休み時間や放課後などの時間を利用し、補充学習に取り組みます。

（２）校内研修の充実

算数に苦手分野が多いことから、校内研修では、今年度も継続して算数科における授業づくりを中心に進めています。子どもどうしがお互いを大切にし、聴き合えるなかまをつくっていくことも、確かな学力の定着に大切な要素であるととらえ、研修の柱としています。

全教員が研究授業を行い、生き生きと学び合う子どもの育成を目指します。また、指導主事や学力向上アドバイザーを研修会に招いて指導を受け、授業研究を重ねながら、授業力向上につなげていきます。

（３）授業の改善

子どもどうしが学び合うことで、学ぶ愉しさを感じることができる授業づくりに取り組んでいます。特に算数では算数用語や図・式を使いながら考えを伝え合ったり、「ふりかえり」（今日の授業で学んだこと）を書いたりすることが、自分の考えを筋道立てて表現する力を養うことにつながると考えます。

また、魅力ある教材やジャンプの課題（レベルの高い課題）を設定するなどの工夫をし、思考力を高める授業改善に取り組みます。

（４）北小タイム・家庭学習・読書活動の工夫

北小タイムや家庭学習では、基礎・基本の定着のため、計算や漢字練習などの反復学習を中心に課題を設定しています。今後は、学力調査などの結果から見えた弱みをふまえた応用的な課題も少しずつ取り入れていきます。

家庭学習では、「学年×１０分（１年生は２０分）以上」を目標に家庭学習に取り組む家庭学習週間を、各学期のはじめに設定しています。

また、読書により親しめるように、学級で多くの本に触れたり、図書館を利用したりする機会を増やしていきます。

5. 家庭・地域へのお願い

（１）家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、ほめる、励ますことで、子どものやる気を引き出すことも大切です。

【家庭学習を習慣にするポイント】

- 毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。
- テレビを消して、集中して勉強する。
- 机の上をかたづけて、良い姿勢で勉強する。
- 教科書やノート、学習用具の整理整頓に心がける。

（２）テレビ、ゲーム、スマホ等の上手なつきあい方を教える・・・ルール作り

規則正しい生活リズムの確立が、学力向上に深く関連しています。テレビやゲームを楽しむ時間や、携帯電話およびスマートフォンを使用する時間、方法などについて、家庭でのルールづくりをしていただきますようお願いします。また、SNS（ソーシャルネットワークシステム）の望ましい活用については、大人の行動から見本を示すことができるようにお願いします。

例）毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。
夜の１０時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。
リビング以外でパソコンは使わない。　など

（３）難しいことにも挑戦する心を育てる・・・ほめて伸ばす

自分自身になかなか自信が持てず、自分で考えたり、自分で決めたりしにくい子どもが増えています。「家族で決めた約束が守れた」「頼んだ仕事ができた」など、子どもが何かを継続して行ったときや、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめていただきますようお願いいたします。成功や失敗、出来や不出来という結果のみに注目するのではなく、結果に至るまでの取り組みの過程も含めて、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

「ほめて伸ばす」ことは、「叱ってはいけない」ことではありません。人のことを考えず、我慢のきかない子どもにならないように、悪い事は悪いと教え、目指すべき良き行動がとれるように子どもを導いていただきますようお願いいたします。